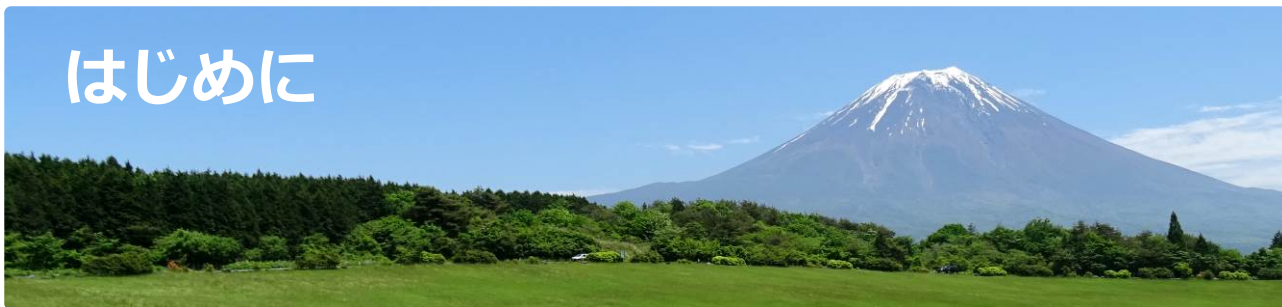


はじめに



ふじのくに生物多様性地域戦略

日本人は、古くからそれと意識しないままに里地里山を育て、それらに象徴される自然と共生した生活や、持続的な農林業を営んできました。一方、自然環境は、時には人の力では治める術もない猛威をふるうこともあり、その荘厳さが大なる神秘を人に感じさせます。豊かなめぐみを与えるとともに、時に酷しい災害ももたらす日本列島の自然環境は、そこに暮らす人々の畏敬の念を育み、山や巨樹、岩、川、滝等の自然物が信仰の対象ともなってきました。

江戸時代ともなると、日本人は花見や紅葉狩り等の憩いのひとときを楽しみ、俳句には季語を用いる等、四季の変化をとまなう自然の景観を身近に感じてきました。江戸末期から明治初頭に日本を訪れた西洋人のうちには、日本を花とみどりが織り成す庭園のような美しい島国、すなわち“Garden Islands”と世界に向けて紹介した例もあります。日本列島の自然環境の特性は、そこに住む人々の感性に大きな影響を与え、日本固有の文化が育つ温床となりました。

日本人は自然環境を自分たちと対峙するものとしてではなく、共生する仲間として一体的に捉えてきました。結果として、自然と人が微妙に関わり合っ、共生する多様な生物たちも安全に維持されてきたのです。古くから富士山を神の山として崇め、自然と一体となって暮らしてきた「ふじのくに」の先人たちもまた、この自然観をもち合わせていたと考えられ、現実、この地の豊かな生物多様性が今に生かされています。

■ 「ふじのくに生物多様性地域戦略」が目指すもの

本県には奥山～里地里山・田園～都市～河川・湖沼・湿地～海岸・海洋と豊かな生態系があります。自然と人が互いに共生する環境の中で、様々な生物たちが育まれてきました。

とりわけ、江戸時代に入ってから、日本文化はその固有の形を示しながら繁栄しましたが、この時代の平和と繁栄の一つの核となった駿府城を中心に、わたしたちの先人が現在に至る静岡県の豊かな自然環境を育ててきたことを誇りに思います。

静岡県内には、ユネスコ世界ジオパークの認定を目指す伊豆半島、世界文化遺産の富士山、ユネスコエコパークに登録された南アルプス、水産資源にめぐまれた浜名湖、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している駿河湾等、世界に誇る自然環境が揃っています。一方、わたしたちの身近な場所には、「今守りたい大切な自然」として後世に残すべき貴重な生物たちの重要生息・生育地が、数多く認められます。わたしたちには、先人から受け継いできたこうした環境を後世に継承していくことが期待されています。



■ 100年後、1000年後にも、自然と人が共生できる静岡県に

わたしたちの県土は、先人たちが自然と共生した生活を営む中で、大切に守られてきた“生物多様性のめぐみ”に溢れる場所で、自然景観と生活景観が織り成す「マジェスティック・ガーデン」とでも呼ぶに相応しい荘厳さや雄大さを持っています。このめぐまれた県土に、安全で豊かな生活を、100年後、1000年後も継承していくために、古くから日本人が育ててきた自然を畏敬する心をあらためて噛み締め、単に自然を護るというだけでなく、産業や文化との関わりを含めて、生物多様性の全貌を県民みんなで理解し、行動していくことが必要です。

「ふじのくに生物多様性地域戦略」は、生物多様性の保全と持続可能な利用に向け、県が県民や事業者等多様なセクターの人たちと協働して取り組む方向を示しており、生物多様性にめぐまれた本県全域を対象とした行動の指針として提示するものです。

100年後、1000年後においても、“ふじのくに”で自然と人が共生して生きていけるように、今わたしたちにできることから行動を始めましょう。

ふじのくに生物多様性地域戦略の目標

生物多様性の大切さを理解し、力を合わせて、
生物多様性にめぐまれた理想郷“ふじのくに”に生きる



コラム

マジェスティック・ガーデン

本戦略では、先人たちが自然と共生した生活を営む中で、大切に守られてきた壮麗・雄大な自然環境や多種多様な生物等からもたらされる“生物多様性のめぐみ”に溢れる場所を「マジェスティック・ガーデン」と呼んでいます。

マジェスティック (majestic) : 壮麗な、壮大な、雄大な、威厳のある、という意味をもつ
ガーデン (garden) : 自然と人が互いに共生することにより、引き継がれてきた環境